

第3回ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議

- ・日時 令和3年12月23日（木）午前10時～
- ・場所 大阪市役所 5階 特別会議室

（事務局
・こども青少年局企画部企画課
・教育委員会事務局総務部教育政策課）

次 第

開 会

- ・プロジェクトチームリーダー（副市長）あいさつ
- ・会議出席者の紹介

議 事

- 1 支援に向けた取組について
 - (1) 国の取組（第5回PT会議（9月14日） など）
 - (2) 本市の取組
- 2 その他

資料

- P 1 国の連携プロジェクトチーム報告書(5月17日)まとめ
- P 2 国の取組(令和4年度概算要求など)
- P 3 気づきから支援につないでいく流れ(対応イメージ)
- P 4 本市における対応(全体)
 - ア 早期発見・把握編
- P 5
 - ・動画配信型研修等について(実施済)(実施予定)
- P 7
 - ・市立中学校生徒への実態調査について
- P 8
 - ・市立高校生徒への実態調査について
- イ 支援策の推進編
- P 11
 - ・1人1台学習者用端末を活用した、いじめ等の相談申告機能の充実について
- P 12
 - ・各区役所における相談窓口の設置について
- P 14
 - ・市立中学校教員へのアンケート結果について
- P 17
 - ・スクールカウンセラーによる相談体制の充実について
- P 18
 - ・(仮称)ヤングケアラーへの寄り添い型相談支援事業について

参考資料

- 参考資料1 ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム設置要綱
- 参考資料2 第3回ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議出席者名簿
- 参考資料3 市立高校におけるヤングケアラーに関する調査結果について(概要)

振り返り：第2回会議での意見について

- サービスが提供されていないときにどういう介護体制なのか、ケアマネージャーがチェックする、専門職として無理が無いのか客観的に見ていくことが必要。
- 安心して本心を話せる場、大阪市でも施策としてこどもの居場所、学習支援をしているので、そういった場で関わる大人たちがアンテナを高くすることが大事。
- （児童虐待対策では）こういうことに気づいたら言ってほしい、などのビラを作って一般市民にも分かりやすくして配って、見守りの目を増やしている、ヤングケアラー版があれば。
- 地域の人は見つけたけど、どうしたらいいのかという話になるので、学校だけではなく地域の中に窓口を作って、発見されたらキャッチができる仕組みがあるとより良い。

➡ 各関係者の気づきの感度を上げ、気づきから支援につないでいく流れの構築が必要

- 家事援助の強化は重要だが、知らない人に家に入ってほしくない、それだったら自分がするとなるので、ヤングケアラーの立場に立って寄り添う支援、伴走型支援が必要。
- こども食堂など居場所でキャッチしていくことが重要。安心して話をできる人、場所が非常に大切。

➡ 支援につないでいくためには、安心して話ができる関係性が必要

- （学校現場としては）ヤングケアラーになっているのかどうかこどもたちの自覚、先生方の自覚も含め、全体の理解を深めるという意味でも、専門家の方々（スクールカウンセラー）をより手厚く配置していただくと非常に有難い。

➡ チーム学校の充実が必要